

環境保全への取り組みをさらに前進させます。

銀行としての本業である「金融」の役割を通じて、地球温暖化防止や生物多様性の保全など、持続可能な社会づくりに向けた取り組みの必要性はますます大きくなっています。

当行ではこのような使命をいち早く認識し、金融機関ならではのCSR（企業の社会的責任）の取り組みとして、さまざまな環境対応型金融商品・サービスを開発・提供し、地域やお取引先の皆さまの環境保全活動を支援しています。

「エコファーストの約束」の達成に向けて

経営に環境を取り込んだ当行独自の「環境経営」は、省エネ・省資源の「エコオフィスづくり」に加え、銀行の本業を通じた「環境対応型金融商品・サービスの開発、提供」に積極的に取り組んでいることが大きな特徴です。

当行は、環境省認定の「エコ・ファースト企業」として、環境保全への取り組みを一層推進してまいります。



滋賀銀行の「エコファーストの約束」

- 1 “お金の流れで地球環境を守る”との気概で、環境対応型金融商品を積極的に推進します。
- 2 地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します。
- 3 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します。

施設の環境対応を積極的に進めています

店舗や施設の新設、移転にあたって、「太陽光発電パネル」や「壁面緑化」、「屋上緑化」など、設備の環境対応を積極的に進めています。

中でも「太陽光発電パネル」は、平成21年12月までに5カ店（宇治支店、南草津パーソナル出張所、仰木雄琴出張所、上野支店、大垣支店）と関連施設2カ所（新事務棟、しがぎん浜町研修センター）に設置し、当該施設での使用電力に充当しています。また、太陽光パネルでの発電量、温室効果ガスの削減量を表示、削減効果の「見える化」を図っています。



太陽光発電パネル

生物多様性の保全をめざして

環境の変化や乱獲などによる希少な動植物の絶滅が、地球規模で年々深刻化しています。琵琶湖でも、ブラックバスなどの外来種の繁殖や、水草の異常繁茂などの課題を抱えています。当行では「今できることに取り組もう」と、小学生たちに生態系を学んでもらう「学校ビオトープ」づくりの支援や、ニゴロブナの放流・増殖のお手伝い、役職員による冬季の琵琶湖畔での「ヨシ刈り」などに取り組んでいます。



生物多様性とは

地球では様々な生きものがつながりあい、支えあって生きており、その「多様性」を指標にして多様な価値を守っていく、という考え方。

琵琶湖の固有種「ニゴロブナ」を放流

琵琶湖の環境と生態系の保全をめざして、「カーボンニュートラルローン 未来よし」を取り扱っています。この商品は、お客さまが当行の環境対応型融資商品を利用して「太陽光発電システム」等を導入された場合、削減された温室効果ガスの量に応じて、「ニゴロブナ」の放流事業に資金を拠出するものです。平成19年度から21年度まで毎年120万円を拠出、その資金で毎年3万匹を放流しています。



平成21年3月のニゴロブナ放流式
(草津市の志那漁港)

「学校ビオトープ」で環境学習をお手伝い

環境対応型金融商品「エコプラス定期」の拠出金で、平成18年度から滋賀県内の小学校の「学校ビオトープ」づくりをお手伝いしています。平成21年度までに13校に総額604万円を寄贈し、各校で環境学習の実践の場としてご活用いただいています。

平成21年度は6月に3校へ104万円を寄贈しました。助成先の一つ、草津小学校では、琵琶湖で採取したメダカやフナを放流するとともに、ヨシやマコモ、ガマなどの水生植物を配してビオトープを整備。太陽光発電で動く噴水装置も設置されました。

「エコプラス定期」は、お客さまが当行のダイレクトチャネル（ATM、電話、インターネット）を利用して定期預金をしていただく、1回のお預け入れごとに7円（ダイレクトチャネルで不要となる定期預金申込用紙代相当額）を当行が負担して積み立て、滋賀県内の小学校の「学校ビオトープ」づくりの資金として拠出させていただくものです。



草津市立草津小学校